

ユニバーサル社会づくり 第6次兵庫県率先行動計画

計画の概要

- 目的**
多様なニーズに応え、質の高い県民サービスを行う「ユニバーサル県庁」の確立
ユニバーサル社会をめざす県の率先プロジェクトを市町、企業、団体、NPOなど多様な主体に普及
- 対象** 知事部局、議会事務局、各種行政委員会事務局、警察、企業庁、病院局
- 期間** 令和元年～令和3年度（3年間）

計画の特徴

現状・課題の把握

“だれにもやさしい県庁”総点検の実施

毎年の職場調査やH31年2月実施の県職員アンケートから、第5次率先行動計画の取組を分析。また、関係団体に対して意見聴取を実施。

分析結果や意見を踏まえ計画に反映

職員一人ひとりが取り組む「県民サービス」

- 全庁で取り組む「必須項目」の設定
全所属が実践し、取組水準を低下させることなく100%達成すべき必須10項目を設定
- 個々の職場で選択実施する「独自項目」の設定
職場の状況等を踏まえ、各所属で3～4項目を選択して取り組む独自項目を設定
- 具体的な取組支援策の展開
研修実施、マニュアル・情報提供などを展開
- 取組状況のチェック体制の強化
「US推進リーダー」「チーフリーダー」を設置

県庁から多様な主体へ広げる「率先プロジェクト」

- “広がり”をめざす実践的プロジェクトの設定
県から、市町・民間へと、ユニバーサルの視点からの取組を広げるための具体的、実践的なモデル事業を設定
- 総合的・横断的な実施
主管部局だけでなく、関係部局が連携して実施
- 達成目標の設定
項目毎に、具体的な達成目標を設定

“だれにもやさしい県庁”総点検

① 職場調査：職場での取組状況を調査した平均達成率

	H27(515所属)	H28(514所属)	H29(513所属)	H30(514所属)
必須項目	96.3%	99.6%	100%	100%
独自項目	100%	98.8%	99.2%	98.3%

※職員を対象に調査したアンケートでも、概ね同等の回答を得ている

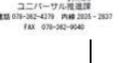
② ユニバーサル社会づくりプロジェクト調整会議：関係22課による検討

- ③ 関係団体意見：関係11団体から意見を聴取（障害者、高齢者、外国人、子育てなど）
 ○窓口対応の職員だけでなく全ての職員が、ヘルプマークを付けた人を見かけたら、声をかけてほしい。
 ○障害者雇用や障害者就労支援事業所等からの優先調達を強化頂きたい。
 ○様々な国からの来訪者が増えており、外国人対応の接遇も必要。
 ○県が作成する広報媒体が紙中心から電子媒体に変わってきているので、字幕や副音声の挿入に努めて頂きたい。
 ○手話で挨拶して頂ける職員が増えてきており、ありがたい。

職員一人ひとりが取り組む「県民サービス」(ユニバーサル県庁づくり)

必須項目：全所属で100%実施

*下線部分追加

	実践項目	備考
意識	① だれにもやさしい県庁づくりのための研修を実施	
	② 職場内や来庁者に対する気持ちのよい対応 ・積極的な挨拶、丁寧な電話対応の実践 ・事務室入口や案内表示前等での来庁者への声かけの実施 ・ヘルプマークを身につけた方への思いやりのある行動	 声かけを必須項目化ヘルプマーク追加
表示	③ 事務室入口のマーク等の掲示 ・補助犬マーク・耳マーク、 <u>手話マーク(県庁)</u> ・B4・A3版カラー表示の配席表・業務説明 ・課室名の表示板に点字ラベルを貼付	 手話マーク追加
環境	④ 管理・監督職は点字名刺を常備	
	⑤ 障害者等とのコミュニケーションを円滑にするコミュニケーションボード、タブレット端末や筆談用具を窓口等に設置	 項目統合
	⑥ 物品・役務等の優先調達の実施	新規
情報配慮	⑦ 視聴覚障害者が参加するイベント等では点字・拡大資料、ヒアリングループを準備	
	⑧ 12ポイント以上で文書・メール等を作成	
	⑨ エンバーサルデザインに配慮した印刷物・ホームページ等を作成(音声コード・音声読み上げ機能の付加、文字・色等に配慮、点字版・外国版の用意等)	
	⑩ 通知文書や印刷物等にFAX番号、メールアドレスを記載	

独自項目：各所属で3～4項目選択実施

*下線部分追加

	取組項目例
意識	① 手話研修の実施
	② 障害者・高齢者等擬似体験研修の実施
	③ <u>外国語で簡単な案内ができるための研修を実施</u>
表示	④ 施設にバリアフリー情報等を記した案内表示を掲示
	⑤ イベント等では分かりやすい案内表示を掲示
	⑥ 受付等に見やすい施設案内図・パンフレットなどを配置
環境	⑦ 大きさや形を工夫した吊り下げ名札の使用
	⑧ 職員全員が点字名刺を1枚以上所持
	⑨ 歩行が困難な方にやさしい通路を確保
情報配慮	⑩ <u>物品・役務等の優先調達の増加(件数・金額を前年度比で増)</u>
	⑪ 外国語による各種資料を作成
	⑫ 案内パンフレットやホームページにバリアフリー情報等を掲載
	⑬ <u>映像DVD等を作成する場合、字幕や副音声の挿入</u> など

R元年度主な取組支援

イベントでの聴覚障害者への情報配慮(手話通訳、要約筆記、ヒアリングループ)を推進 ヘルプマークの周知

県庁から多様な主体へ広げる「率先プロジェクト」(政策目標)

数値は各年度末時点。但し⑨は各年度4/1時点 *下線部分新項目

モデル事業	目標
① 兵庫県率先行動計画の実施	必須10項目の100%実施
② 手話通訳者・要約筆記者の配置等の情報配慮の徹底	県主催の必要なフォーラム等で100%実施
③ <u>外国人県民への多言語による平日+週末生活相談・情報提供の実施</u>	[H30]2,514件→[R3]2,800件
④ 兵庫ゆずりあい駐車場(パーキングパーミット制度)の実施	[H30]累計4,645区画 →[R2]5,200区画
⑤ <u>認知症サポーターの養成数</u>	[H30]累計445,003人 →[R2]520,000人
⑥ (ア) 県有施設における障害者・専門家等による点検・助言制度「チェック&アドバイス」の実施	[H30]累計47件→[R3]56件

モデル事業	目標
⑥ (イ) 県営住宅等を活用したグループホームの整備	[H30]累計228人分→[R2]250人分
⑦ <u>障害者就労支援事業所等からの優先調達</u>	[H29]39,706千円→[R2]100,000千円
⑧ 障害者スポーツ推進拠点の増加	[H30]累計78箇所→[R3]90箇所
⑨ (ア) 知事部局等の採用者 (イ) 本庁課長相当職以上の職 (ウ) 本庁副課長、班長・主幹相当職	に占める女性割合の向上 (ア) [H31]40.3%→[R2]40% (イ) [H31]11.9%→[R2]15% (ウ) [H31]18.7%→[R2]20%
⑩ (ア) 配偶者の出産補助休暇 (イ) 男性の育児休業 (ウ) 男性の育児参加休暇	取得率の向上 (ア) [H30]98.1%→[R2]100% (イ) [H30]希望者の100%(対象者全体の5.6%) →[R2]希望者の100%(対象者全体の5%程度) (ウ) [H30]72.2%→[R2]100%